

■内田銀蔵 歴史学者。日本経済史学を開拓・確立した。

うちだぎんぞう

学問のすすめ1872= 東京府南足立郡千住で、宿中組の旧家川魚問屋(鮒与)の長男に生まれる。

明治6年政変 1873= 1歳 :

明治14年政変1881= 9歳 :

帝国憲法発布1889=17歳 : 東京専門学校政治科を成績抜群で卒業すると、いきなり第一高等予科3年に編入され、

帝国議会始・1890=18歳 :

のち\_帝国大学文科大学に入学して、国史科に学び、同期生には国史科の喜田貞吉・黒板勝美・笹川種郎、史学科の原勝郎・幸田成友、漢学科の桑原隲蔵ら。

日清戦争始・1894=22歳 :

白馬会・・・1896=24歳 : \_首席で卒業して大学院に進み、「日本経済史及史学と経済学との教育的価値」を研究題目とする。

子規句歌革新1898=26歳 : \*(史学雑誌)に「経済史の性質及び範囲に就きて」を發表。福田徳三の「日本経済史論」(独文)につぐ先駆的著作「経済史」を、東京専門学校政治経済科講義録として執筆、

Bushidou・・・1899=27歳 : 東京帝国大学文科大学の講師になり、国史科・史学科で、日本の大学講壇最初の日本経済史を講義。

教科書疑獄・1902=30歳 : \*論文「我国中古の班田収授法及近時まで本邦中所々に存在せし田地定期割替の慣行に就きて」および「徳川時代特に其中世以後に於ける外国金銀の輸入」を書き、これによって文学博士となる。

日比谷公園・1903=31歳 : 「日本近世史」。文部省外国留学生としてヨーロッパに出発、

イギリス・フランス・ドイツの各地をめぐって3年間留学、主としてドイツ歴史学派の学風を学び、

日露戦争終・1905=33歳 : その途中、広島高等師範学校教授に任命され、

満鉄発足・・・1906=34歳 : 帰国。たまたまこの年に京都帝国大学に文科大学が増設されることになって、同大学教授を兼任し、文科大学史学科開設の企画に参加した。その際とくに、日本ではじめて史学科で学生のための国史研究室を設け、またはじめて史学科に地理学講座を置いたのは、内田の創見によるものであったといわれる。

韓国反日暴動1907=35歳 : \*京都帝国大学専任教授となり、開講された史学科で国史学講座を担当、

アヲヲキ 創刊・1908=36歳 : 喜田貞吉を講師に迎えている。

その後、史学研究法・国史概論のほかに、日本近世史・日本経済史の講義をあわせて行なうとともに、

韓国併合・・・1910=38歳 : 発刊の\_京都帝国大学文科大学の紀要(芸文)に、史学の理論的究明をめざす論文「史学と哲学」を發表し、

明治天皇没・1912=40歳 : その経済史の理論を展開した著作「経済史総論」を刊行するなど豊富な執筆活動を続けるが、

ロシア革命・1917=45歳 :

本格政党内閣1918=46歳 : 第1次世界大戦後、再び欧米各国に出張、

ベルサイユ条約・1919=47歳 : 「近世の日本」。帰国したが、間もなく発病し、\_急逝した。

没後、「日本経済史の研究」2巻、「内田銀蔵遺稿全集」5巻。